

# こんにちは 日本共産党綾部市会議員 いだかよこです



井上さとし参議院議員・  
倉林明子参議院予定候補と

2013年6月 第11号 綾部市味方町畦田30番地  
電話・ファックス 0773-43-3255 携帯090-5012-9039

ブログ「こんにちは いだかよこです」 <http://dog.at.teacup//idakayoko/>

議員団の「こんにちは」も合わせてお読みください

3月議会総括質問より

## 市立病院産婦人科の今後は

【質問】新聞報道で産科閉鎖を知り驚きました。安心して故郷でお産ができる、市民から喜ばれていました。今後どうなるのでしょうか。

【答弁】平成24年当初、4名の産婦人科医が在籍、2名の医師から郷里での病院勤務の希望があり3月末退職となった。医師不足は深刻な社会問題であり、特に産婦人科医は不足している。府立医大には再三医師派遣要請をしているが、大変厳しい状況にある。外来診察・妊婦健診、は引き続き行い手術は規模縮小となるが実施可能。

## 市立病院に

### 女性外来が設置できないか

【質問】京都市内にはありますが、舞鶴市民病院にあった窓口も閉鎖されたまま。綾部市立病院に設置要望があります。女性であるがゆえの病気や悩み、女性の心と体に配慮した総合的な医療が求められます。

【答弁】内科・外科・婦人科のトータルな知識をもつ女性医師と、スタッフが必要。検討はしているが、現状では難しい状況。

医師不足はさまざまな問題がありますが、おおもとは、政府の社会保障切り捨て政治があります。医療と社会保障を際限なく切り捨てる政治を転換し、政府が、国民のいのちと健康をまもるといふ本来の責任を果たすことが必要です。

## 丹波大橋バス停旧待合所を再開できないか

【質問】市民から再開を希望する声があります。以前の答弁で、維持管理費がかかるということがありましたが、当時の管理費は。

【答弁】当時、待合所の開閉、消灯を含む通常管理や清掃を京都交通で40万円。建物の補修、便所のくみ取り、電気水道料を綾部市で35万円負担。年間75万円、あやバスの運行は当初から出来るだけ経費を抑えて効率的に運行している。基本的に生活バス路線であり長時間バス待ちをしていただくことはないと考えます。

この建物は市民の財産です。待合所として使用されていた建物は、現在資材置き場として使用されています。設置場所からいっても、建物の有効活用が求められるのではないのでしょうか。



丹波大橋バス停旧待合所

## 自立支援センター

### 「いかるがの郷」施設開放日

作業の様子を見せていただいたのは初めてです。

下請け作業では、バッグの取っ手。印刷は、はがき・Tシャツ、看板なんでも。ダイレクトメールの封入など。「ほめ方絵本」の注文は全国からはいるそうです。



いかるがの郷制作の製品

障害のある方が抱くさまざまな形の「働き方」を受けとめ、家族や地域、行政・支援センターなどが連携しながらすすめておられます。

ここで働く力をつけ、事業所で働き始めた方もあります。

利用者さんは47名で、職員10名、綾部市外から4名の利用者さんがあります。（綾部から市外の施設通所者もあります）

## NO NUKES DAY 綾部のつどい

6月2日、全国各地とつながって綾部でも集会がおこなわれました。

「子どもを放射能から守りたい。」  
「飯館村では除染が行われているが、田んぼのあぜ道で放射線量はかると、7・7マイクロシーベルトの表示が出て驚いた。もし原発で事故が起これば綾部でも同じことが起きる。」  
参加者はそれぞれの思いを訴えました。集会の後、全員がアピールしながら市内をパレードしました。



参加者たちは、プラカードを持ち市内パレード

# 南相馬ボランティア

行ってきました  
2013.4.2~4

今回京都府全域から50名を超えるボランティアが南相馬市牛越仮設住宅を拠点に、他の仮設住宅やこれまで支援が届いていない借り上げ住宅への支援に入ることができました。



福島に入り、峠の途中で測定した放射線量

綾部午前5時20分出発、南

相馬市牛越仮設住宅、午後5時到着。休む間もなく府内各地から集結したボランティア全員で、翌日の訪問先に届ける卵のパック詰め。お米とペットボトルの水、卵をワンスツトに袋詰め。800世帯訪問の物資ができあがったのは、9時過ぎでした。

遅い夕食をとり、お借りした集会所に布団や寝袋を、台所の床まで広げ 眠りについたのが深夜でした。

2日夜から降り始めた雨は、警報の出る暴風雨となり、カッパを着ても下着まで濡れるほどでしたが、多くの市民の方からいただいたお米や、卵と水を届けて喜んでいただきました。

## 初めて

### 借り上げ住宅を訪問

南相馬市は、個人情報保護を理由に、市会議員にさえ住所を教えていません。事故から2年、ボランティアの支援は届いていませんでした。今回、牛越仮設自治会長さんの案内で、57件を訪問することができました。

最初に訪問した方は「震災後、日本共産党の議員にたすけられた。」と訪問活動を手伝ってくださいました。

「初めて支援物資をいただき涙がでます。」と、手を合わせる方。お菓子やお茶で大歓迎してくださいました。

「仮設住宅は2年ごとに更新が必要。困る。」

「自宅は原発から17キロ、雨漏りがひどく解体せざるを得ない」

「6回引っ越してやっと落ちついた借り上げ住宅で、夫が亡くなった。」

「4力所転々として、やっとここに落ちついた。ストレスを感じていたのか、家族同様の犬が死んでしまった。」借り上げ住宅のみなさんからお聞きした声の一部です。

みなさんからお預かりした大切な支援物資ですが、被災一軒あたりにはすればわずかなお米とペットボトルの水、卵6個...、手を合わせていただくほどではない気がします。でも、このまま忘れられてしまうのではないかという不安。借り上げ住宅の場合、被災者だと名乗らなければ、わかりません。ご近所に顔見知りがない孤立感。「遠く京都のみなさんの気持ちと、尋ねて来てくれたことがとてもうれしい」と、皆さんおっしゃっていました。カンパを頂いた皆さん、ご協力ありがとうございました。

### 訪問した仮設住宅

|         |       |
|---------|-------|
| 大鹿・牛越仮設 | 460世帯 |
| 角川原仮設   | 76世帯  |
| 鹿島小池仮設  | 180世帯 |
| 八方内仮設   | 60世帯  |

南相馬市社会福祉協議会主催  
『サロン』女性集会

『丹後のばら寿司作り』と

交流会

南相馬の社協担当者から「午後借り上げ住宅のサロンがあるのでお寿司を分けていただけないか」と申し出があり、急きょボランティアの昼食分30食と、お菓子のプレゼントをすることになりました。

被災者26名(仮設自治会員・新婦人会員・借り上げ住宅住民)ボランティア13名、社協職員6名でばら寿司作り。初めて出会った方同士も、胸に付けた名札の珍しい名前や、新婦人の活動など、調理をしながらそこで話がはずんでいました。

交流会では、参加者全員が発言し交流しました。



仮設訪問から帰った倉林明子さんも加わって、女性集会の丹後ばら寿司作り

## 事故当時のままの浪江町

4月1日から、申請をすれば調査目的の立ち入りが許可されるようになりました。2011年3月11日から時間は止まったままです。農地は水路が壊れているため、排水ができず、昨日の豪雨で一面湖になっています。



海ではなく向こうの山までみずたまりの田んぼ

米の作付は今年もできません。何年も土づくりから工夫を重ねて、米作りにかけてこられた方々の気持ちを思うと、どんな言葉で励ませれば良いのかわかりません。原発事故が、ふるさとも人々のくらしも奪い、復興はすすみません。収束などしていません。原発再稼働ではなく、絶対廃炉です。